

形態2: 校合式

扱わない問題

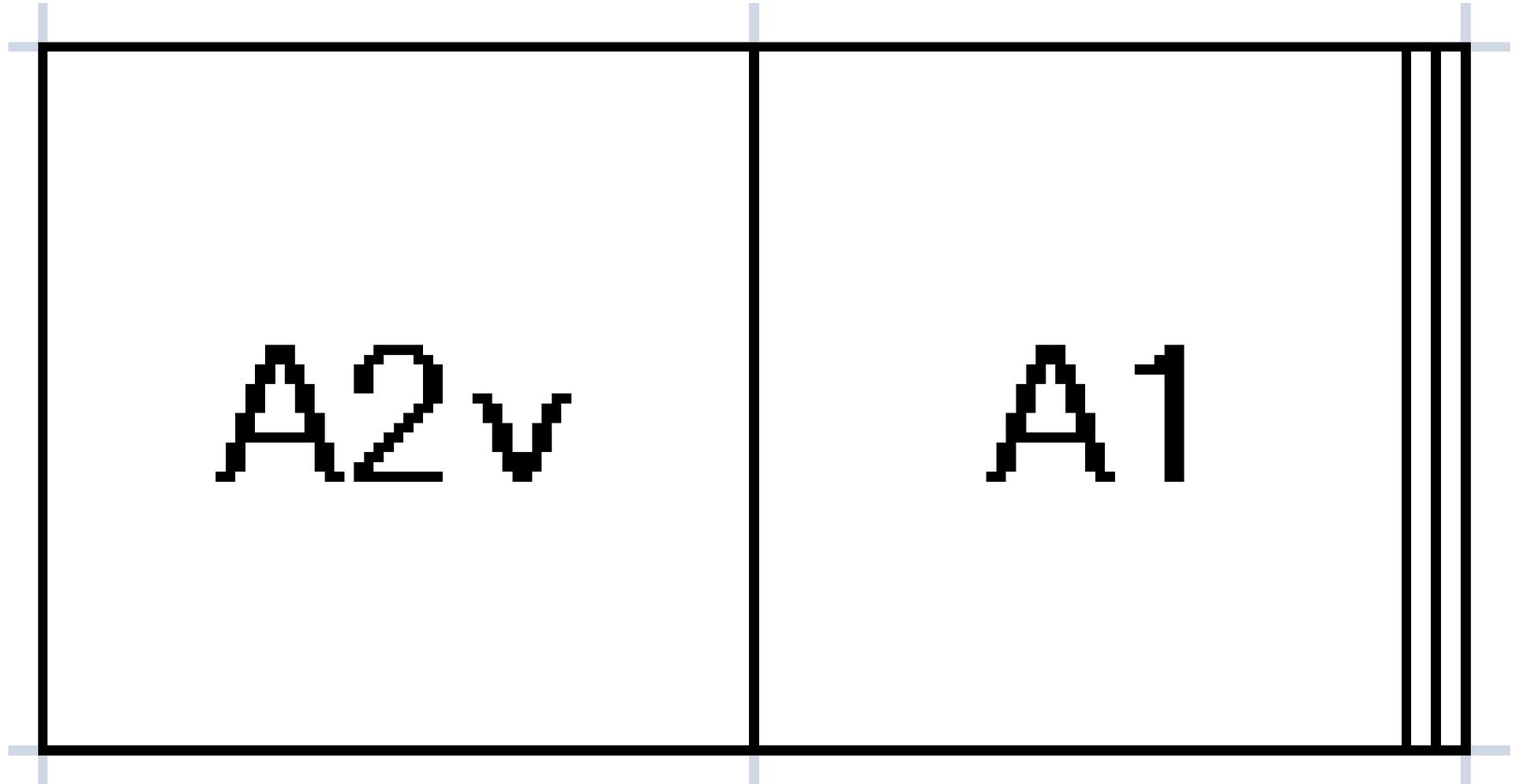
折丁中の変更には

1. 物理的変更を伴う場合
2. 物理的変更を伴わない場合

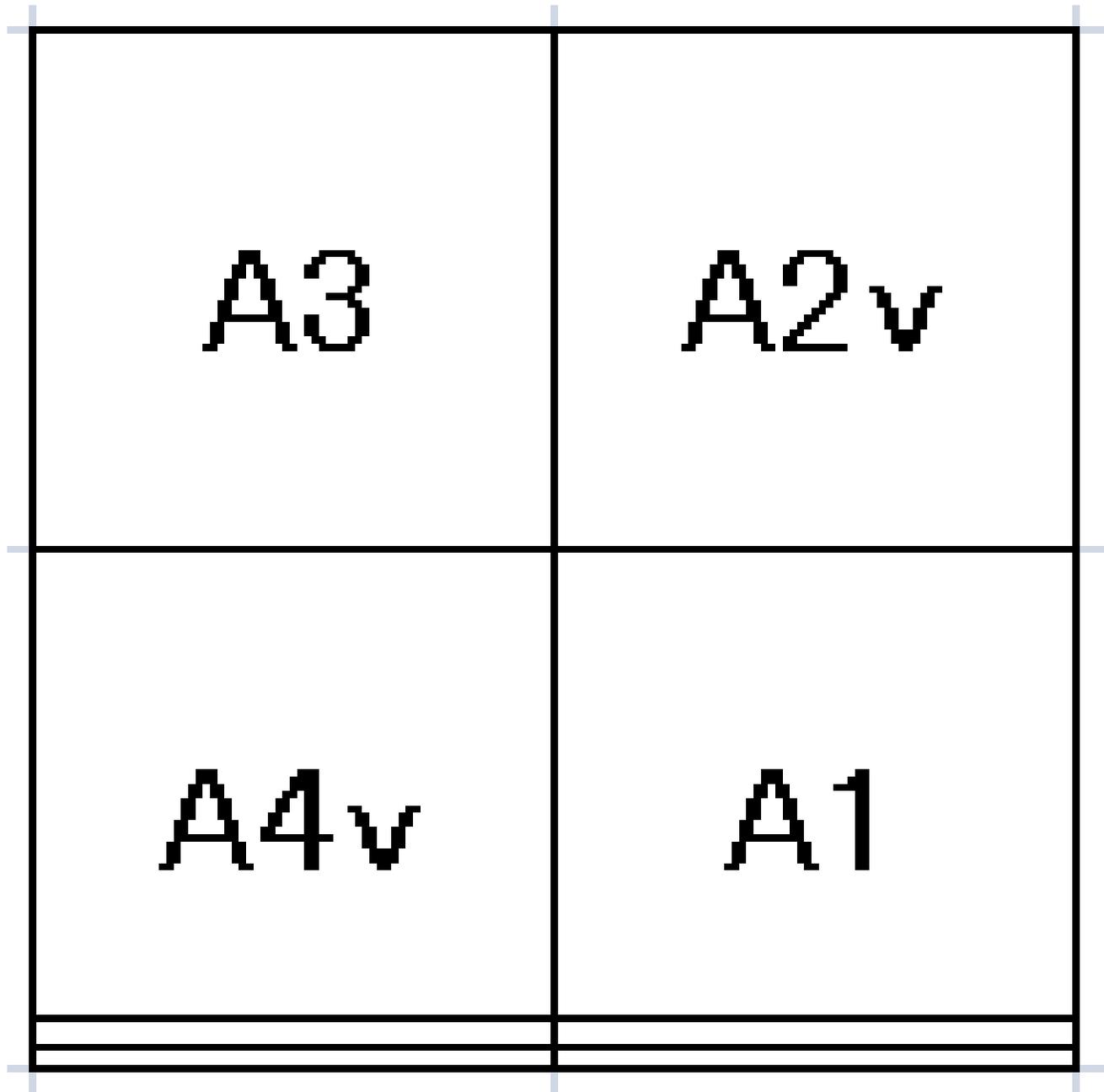
がある。

目録で扱うのは1の場合である。2は図4に示したような場合であり、目録作成時には扱わない。これは比較しなければわからないので、研究者の領域になる。

二折



四折



八折

A3	A6v	A5	A4v
A2v	A7	A8v	A1

折記号の表記

折記号とは折丁を並べるための記号(文字、数字、記号)。
図1に示したように、折記号は本文より下の行に示されている。

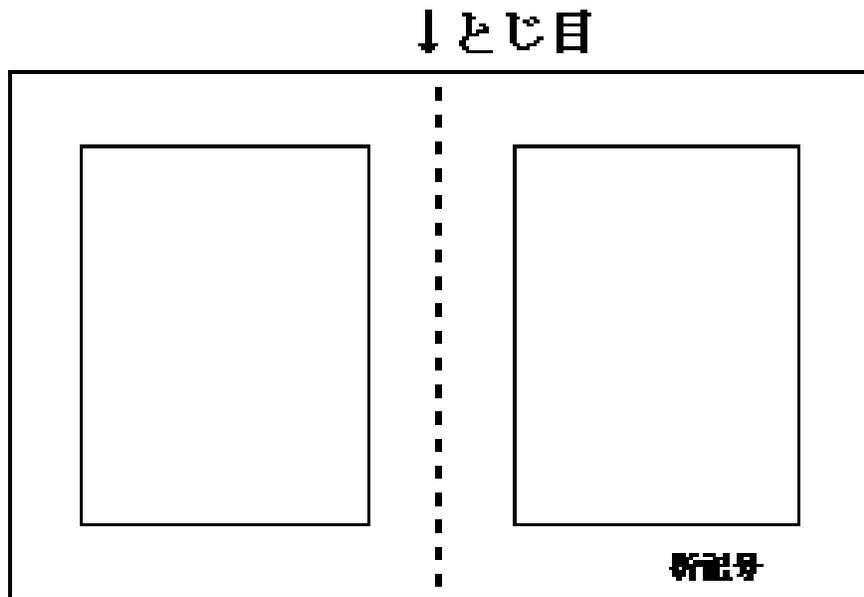


図1 : 本の見開き

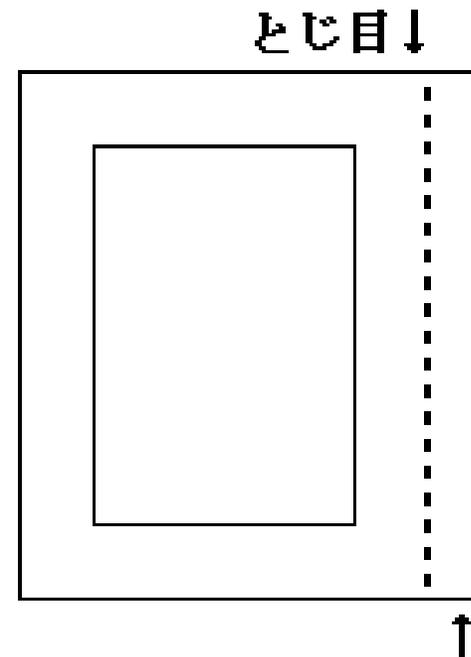


図2 : スタップ

折記号の表記

1. 表示形

① 文字 A-Z

アルファベット23文字で、I(またはJ)、U(またはV)。Wは使わないただし、大文字と小文字は区別して使う。

スモール・キャピタルは使わない。

② 数字 数字はこのまま使う。

③ 記号 そのまま使う。ただし、順序関係はない。

④ 重複文字 原則は大文字で。 Aa → 2A

⑤ 連続文字 連続する文字や数字はハイフンで簡略化

A-Z Aa-Zz

→ A-Z 2A-2Z

→ A-2Z

右肩数字

① 折丁中の紙葉数を示す工夫。

A^8 A折丁は8枚

② 右肩数字は偶数

どの判型も最終的には二折の状態なので、
紙葉数(右肩数字)は偶数。

折丁中の紙葉の姿(原則) 1

1. 折丁内の紙葉はとじ目を境にしてつながっている。
2. とじ目を境にした左右の紙葉数は同数。
3. とじ目を境にして、左側の紙葉にだけ折記号が付いていることが多い。

校合式の作成

1. 折記号が連続し、紙葉数が同じであれば、ハイフンで結ぶ。 $A-S^8$
2. 折記号は連続しているが、紙葉数が異なれば、独立に示す。 $a-c^4 d^6 e-m^8$

白紙、図版、出版目録、正誤表

折丁にとって必要な紙葉かどうかを識別する。

白ページは但し書きをする。

正誤表(の紙葉)は折丁にとって必要な紙葉。

注記の表示

誤ページ Pages 115, 131 and 215 misnumbered 105,
141 and 251

白紙(ページ) A-3T⁸ 3U² (3U2 verso blank)
A-3T⁸ 3U² (3U2 blank)

正誤表 Errata on p.2 又はA1^v